

ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2024年2月7日 16:00～17:00
説明者	コーポレートコミュニケーション部 IRグループリーダー 廣 潤一
説明資料	2023年度第3四半期決算の概要 及び 2023年度業績予想の概要

#### Q&A

##### ■ ライフ&ヘルスケア・ソリューションセグメント

**Q1. ライフ&ヘルスケアソリューションが 2Q（7-9月）から 3Q（10-12月）にかけて増益となった理由を説明してほしい。また、3Q（10-12月）から 4Q（1-3月）にかけて増益する理由について説明して欲しい。**

**A1.** 2Qから3Qにかけて、ビジョンケアが顧客在庫調整影響の解消に伴う販売数量増により増益となりましたのが主な要因です。農薬は一部の海外向けの需要期が2Qであり、3Qは2Qから減益となり、加えて不織布は交易条件の悪化により2Qから減益となりましたが、ビジョンケアの増益が上回りました。

3Qから4Qにかけて、ビジョンケアは新プラント稼働による固定費の増加はありますが、販売数量の増加による増益を計画しています。農薬は4Qが国内需要期となるため増益を計画しています。

**Q2. ライフ&ヘルスケアソリューションの年間見通しを下方修正したことについて、各サブセグメントの状況について説明して欲しい。**

**A2.** 主にビジョンケア及び農薬の販売数量が前回計画に対し減少する見通しにより下方修正となりました。ビジョンケアは前回見通しでは上期の減販分を下期で取り戻す計画でしたが、増販が前回計画に未達となる見込みです。農薬は前回見通しでは南米においてジノテフランが比較的新しい剤であることから在庫調整影響は軽微であると見込んでおりましたが、一定程度影響が出てきています。加えてアジアでは特にインドにおける天候の問題で作付面積が減少した影響が出てきました。これらの影響はあるもののジノテフラン及びテネベナールの販売は堅調で、特にテネベナールは上市から間もない剤であるため前回見通しから変わりなく、引き続き高い成長を計画しております。

##### ■ モビリティソリューションセグメント

**Q3. モビリティソリューションの 3Q（10-12月）が前年同期対比で減益、特に交易条件が悪化している理由について説明して欲しい。また、3Q（10-12月）から 4Q（1-3月）にかけて増益となる理由について説明して欲しい。**

**A3.** タフマーの太陽電池封止材向けは3Q前年同期対比で堅調に推移しております。PPコンパウンドの22年度3Qは原料価格下落により交易条件が改善していましたが、23年度3Qは原料価格上昇により交易条件が悪化しました。3Qから4Qにかけては、自動車用途の増販による増益に加えて、ソリューション事業の受注増加による増益を見込んでいます。

##### ■ ICTソリューションセグメント

**Q4. ICTソリューションが 2Q（7-9月）から 3Q（10-12月）にかけて大きく増収となっているが、主にどの製品が増収となったのか説明して欲しい。また、3Q（10-12月）から 4Q（1-3月）にかけてさらに売上収益が増加する要因についても説明して欲しい。**

**A4.** EUVパリクルは3Qから透過率90%品を出荷しており、大きく販売数量が増加しました。また半導体関連市場全般について需要が底を打ち回復してきていることから2Qから3Qにかけて販売数量の増加により増収となりました。3Qから4Qにかけては春節等の季節性の影響があるものの、需要の回復もあることから若干の増収を計画しています。

**Q5. ICTソリューションが 2Q（7-9月）から 3Q（10-12月）にかけて売上収益は70億円程度増加しているものの、コア営業利益は5億円程度の増加にとどまった理由について説明して欲しい。**

**A5.** 販売数量の増加により2Qから3Qにかけて増収となりましたが、アペル等で相対的に価格の低い非光学用途の販売も増えていることから、販売構成の差による影響が出ました。

**Q6. 3Q 累計（4-12月）でコーティング・機能材の交易条件が前年同期対比で改善している理由について説明して欲しい。**

**A6.** コーティング・機能材はニッチな分野の製品が多いことから、値上げ及び原料価格の下落に対して販売価格の下落を抑制することで交易条件が改善しています。

**Q7. ICT ソリューションの見通しを前回見通しから下方修正しているが、前提となる下期の半導体関連市場の見通しについて説明して欲しい。また、半導体関連市場の回復が遅れている中でも堅調とみられる EUV ペリクルやイクロスの状況について説明して欲しい。**

**A7.** 前回見通し時点ですでに半導体関連市場の需要は底を打ったものと考えていました。そのため前回見通しでは下期にある程度需要が回復する前提としておりましたが、想定よりも需要の回復は遅れており、販売数量が前回計画から減少となりました。また、アペルはスマホ向けの数量回復に加えて高付加価値の XR 用途向けの拡販を見込んでいたものの、XR デバイスの需要鈍化の影響により、前回見通しから減益を見込んでいます。一方で EUV ペリクルは 3Q に当社の想定通りの販売となりました。イクロスは需要の回復に加えて 3Q が需要期ということもあり、2Q から販売数量が回復しています。

**Q8. 半導体材料、光学材料等の需要が回復する時期について見通しを説明して欲しい。**

**A8.** 全般的な半導体関連市場については徐々に回復してきていますが、使用される分野によって回復の時期に違いが出ています。アペルについてはスマホの生産台数回復により 3Q の販売数量は 2Q から回復してきていますが、過去実績並みに戻るにはまだ時間がかかると考えています。イクロスについては在庫調整が早期に始まったため、他の半導体関連製品と比較して早期に回復を見込んでおり、年間見通しでは前年対比でも若干の販売数量増加を計画しています。

**Q9. EUV ペリクルについて 3Q（10-12月）の数量は堅調に推移したとのことだが、前回見通しで説明していた年間で数量が前年度対比 3 割増加という計画に変更ないか説明して欲しい。また、透過率 90%品の出荷状況について説明して欲しい。**

**A9.** 3Q の EUV ペリクルは前回見通しの想定通りの出荷となりました。年間の見通しも前回から変化はなく、引き続き前年度対比で 3 割程度の販売数量増加を計画しています。下期からは従来の透過率 88%品に代わり主に透過率 90%品を出荷している状況です。

**Q10. EUV ペリクルの透過率改善について、CNT ベースとなるペリクルの imec との共同開発の状況を説明して欲しい。**

**A10.** CNT ベースのペリクル開発については先般ご説明しました通り、imec との共同開発を進めています。当社は EUV 露光機メーカーである ASML 社とも強い関係を持っていることから、3 者で CNT ベースのペリクル開発を進めていきます。

#### ■ベーシック&グリーン・マテリアルズセグメント

**Q11. ベーシック&グリーンマテリアルズの 2Q（7-9月）から 3Q（10-12月）にかけて増益となった理由について説明して欲しい。**

**A11.** 2Q から 3Q にかけて+100 億円程度の改善となりました。内訳は主に在庫評価差で+70 億円程度、2Q のトラブル影響等の解消で+30 億円程度となりました。

**Q12. ベーシック&グリーンマテリアルズの下期見通しについて、3Q（10-12月）から 4Q（1-3月）にかけて大きく減益となる理由について説明して欲しい。**

**A12.** 3Q から 4Q にかけて△100 億円程度の悪化を見込んでいます。3Q は原料価格上昇により在庫評価益が出ていましたが、4Q は原料価格下落により在庫評価損が発生することから、在庫損益で△40 億円程度の悪化を見込んで

います。また、租税公課等の賦課金影響で△35 億円程度の悪化を見込んでいます。加えてフェノールチェーンの市況悪化やウレタンの季節性の影響による持分法投資損益悪化、需要が鈍化している中で在庫管理強化による在庫固定費増加、修繕費増加等により△25 億円程度の悪化を見込んでいます。

**Q13. ベーシック&グリーンマテリアルズは年間見通しを前回から△ 80 億円下方修正しているが、その内訳について説明して欲しい。**

**A13.** 前回見通しからは主に数量が悪化しています。前回見通しではクラッカー稼働率 80%となる程度には需要が回復すると見込んでおりましたが、さらなる需要減及び在庫コントロールの観点からクラッカーの稼働も下がる見通しです。

**Q14. 下期見通しのクラッカー稼働率を前回見通しから下げているが、10-12 月の国内平均と比較してもさらに低くなっている理由について、Q ごとの稼働率の状況を含めて説明して欲しい。**

**A14.** 前回の見通しでは下期のクラッカー稼働率を 80%程度と見込んでいました。今回の見通しでは 3Q、4Q ともに 80%を下回る前提となっています。前回から下方修正となったのは、需要が厳しい中でキャッシュフロー確保の観点から稼働をコントロールしているためです。

**Q15. フェノールチェーンの国内生産能力縮小の検討状況について説明して欲しい。**

**A15.** 引き続き最適な生産体制、事業体制を検討している段階です。今後は意思決定などお伝えすることがあれば都度ご説明します。

**Q16. 23 年度から 24 年度以降にかけて複数計画されている最適化・再構築案件についてそれぞれの効果額を説明して欲しい。**

**A16.** TDI のダウンサイジングについては 25 年度 7 月に最適化を計画していることから、損益への寄与は 25 年度以降になります。フェノールの子会社売却については実行済みで、22 年度の損失△40 億円程度が 23 年度に改善しています。PTA・PET のプラント停止についてはいずれも資産規模があまり大きくなく、減損済みであることから償却費等が減少する影響は小さいものの、来期以降の損益が一定程度改善する見込みです。

**Q17. 経営概況説明会でクラッカーの再編について説明があり、地域連携やクラッカーの統廃合には時間がかかるとう理解している。足元のベーシック&グリーンマテリアルズの損益を考慮すると、クラッカー再編までの期間において何らかの収益対策を行わなければキャッシュフローが厳しくなると考えられるが、当社がどのように考えているのか教えて欲しい。**

**A17.** 23 年度は需要減に加えトラブルの影響もありクラッカーの稼働率は低水準で推移しています。需要に左右される部分ではありますが、現状の体制でも 80%程度のクラッカーの稼働率を確保できれば、足元のような赤字にはならないと考えています。来期に向けてはコストダウンや値上等の収益改善を行うことで赤字を解消し、黒字を目指せる体制を構築していきます。クラッカーの再編までは、ベーシック&グリーンマテリアルズの戦略である再構築及びダウンフロー強化による資本効率の向上を着実に進めていくことが重要となるので、進捗については順次発表していきます。

**■ 共通**

**Q18. 各セグメントの 4Q (1-3 月) における租税公課等の賦課金影響を説明して欲しい。**

**A18.** 4Q において、ライフ&ヘルスケアソリューション、モビリティソリューション、ICT ソリューションはそれぞれ 10 億円程度、ベーシック&グリーンマテリアルズは 35 億円程度の賦課金を見込んでおります。

**Q19. 年間見通しにおける非経常項目の内容を説明して欲しい。**

**A19.** 非経常項目の内容は、前回決算でご説明した三井化学東セロの会社分割に伴う公正価値の見直しの他に、主にベーシック&グリーンマテリアルズを中心とした事業構造改善に伴う損失を見込んでいます。

以上